

第 2 回北本市高齢者福祉計画 2 0 2 4 ・ 第 9 期介護保険事業計画策定委員会 意見一覧

No.	意見者	意見
1	近藤委員	デマンドバスについて、歩行器の利用者は利用を断られてしまうため、利用をあきらめている人もいる。活動の幅が広がれば、閉じこもりを予防出来る。
2	中村委員	デマンドバスについて、補助者を同乗させる、歩行器を積むことを運転手の業務に含める、等工夫できれば良いのではないかな。
3	新井委員	デマンドバスについて、時間が合わず、行けたけど帰れないという声もある。また、親の介護をするためにヘルパーの資格を取った人が多いが、活用していないという人も多く、もったいない。将来的にマッチングアプリがあると良いと思う。
4	奥山委員	市と社協が一緒になって、情報交換や情報発信をし、外を出歩ける機会を増やす取り組みを進めて欲しい。
5	吉岡委員	亡くなった方に家族がいても支援が困難、関わりたくないなど家族との関係が希薄になっている。団地に住んでいた方が亡くなって、片付けや支払いが問題になったことがあり、今後こういうケースが増えてくると思う。柔軟な対応があると良い。
6	中村委員	介護予防で必要なのは骨粗しょう症検診。近隣市は行っている。1 度骨折すると繰り返すため、余命が落ちていく。骨粗しょう症検診を行っていないのは、介護予防に取り組んでいないといわれても過言ではない。
7	吉岡委員	健康診断に認知症の項目が入ると良い。
8	中村委員	財源の関係で先送りになっていると見受ける。
9	近藤委員	認知症の人は増えていく。健診でスクリーニング出来れば良いと思う。
1 0	中村委員	健診事業の取組をもう少し考えていかないといけない。介護予防・重度化防止には、受診が大切だと伝える必要がある。
1 1	小林委員	北本は受診率が県内で 5 本の指に入る。桶川市では認知症のチェックリストをやっている。認知症支援チームがあり、チェックリストの実施を促すなどしている。北本市は受診率が高いだけに、タイアップ出来ると思う。また、デマンドバスについて、桶川市は職員が 1 人～2 人かかりきりで毎日配車サービスをしている。軌道に乗るまでは大変だと思うが。

1 2	中村委員	どこにお金をかけるか。お金がかかったとしても、他の予算を回すなどすることも出来るはず。お金がないなら、対象を絞って健診を実施するなども選択肢としてはある。認知が進む前に気付けることが大事。健診を実施しないならば、周りが気付ける体制づくりが必要。
1 3	清宮委員	介護人材の確保について、掲載していただき、ありがたい。1 番難しい課題だが、現場と行政で北本独自の何かを作ると良いのではないか。上尾や鴻巣など大きい市に挟まれてしまうと、人材がそちらに取られてしまう。北本で働くことを魅力に感じてもらう必要がある。
1 4	中村委員	働く場所があるんだということを発信することが大事。北本に住もうという若い世代に対して、広報と組んで人を集める方策を考えると良いのではないか。
1 5	吉岡委員	転倒に対する不安があるという方が多い。これについて、何か対策があると良いのではないか。
1 6	奥山委員	住民同士のつながりが希薄になってきていると感じる。支援を必要とする人に、市の肩書がないとドアを開けて貰えない。手の出し方が難しい。独居老人とのつながり方が課題と思う。
1 7	中村委員	こういうケースは支援につながったなど、示せばよいと思う。
1 8	清宮委員	通いの場の拡充について、高齢化が進んでおり、世代交代が課題。今後も維持していくためのマネジメントが必要。
1 9	近藤委員	介護認定調査に遅れが出ている。癌末期の方の認定について、以前は1 週間以内に調査をしていたが、今は1 か月位になっている。調査が入らないと使ったサービスが実費になってしまう。そうなると利用をやめておくという話になる方もいる。癌末期の方は特例の対応にならないか。今よりも早く結果が出たら、せめて調査が入れば、遡って介護保険が適用される。
2 0	奥山委員	介護認定調査員が足りていないのではないか。
2 1	中村委員	重点課題に対して市がお金をかけるかどうか。人を増やせば進む。
2 2	遠井委員	ケアマネジャーが不足している。資格を取った方に就いていただくことが大事。